

中山間地域の交流拠点におけるイベントの来訪者による評価

～面接方式意向調査の設計～

亀山 宏・アレックス ピーター タバン・モコトウラネ マツオバネ・柴田裕子*¹

The Visitor's Evaluation of Events in the Friendship Center in the Hilly and Mountainous Areas – Interview style and Questionnaire design –

Hiroshi Kameyama, Alex Peter Taban, Matsobane Mogotlane and Yu-ko Shibata

Abstract

In this research, we took up an event by a council of the revitalization of Gomyo-district, where they are practicing one model of regional promotion in mountainous areas. The basic concept of activities related to holding an event is (1) to make visitors feel like their hometown and (2) to create a turn to show off what they are good at. The subject of the research was the evaluation format of the event by the visitors. Over the three years, we improved the survey style and the survey design to enhance the venue's atmosphere by interacting with the surveyors. With the survey results, the ordinal logit models were estimated, and as the marginal effect analysis, the predicted value of the comprehensive evaluation of age-specific events was shown.

Key words : regional promotion, visitor's evaluation, survey design, ordered logit model, marginal effect

緒 言

中山間地域の農業・農村は、流域の上流部に位置することから水源かん養機能、洪水防止機能等の多面的機能によって、下流部の都市住民を含む多くの国民の生命・財産と豊かな暮らしを守る役割を果たしている。一方で、耕作放棄地の増大、森林の荒廃、伝統的祭事の衰退、小学校等の維持が困難など、様々な問題に直面している。これらは若年労働力の流出や残された親世代の高齢化による人口の減少、集落機能の低下に起因するものが多い(小田切ら⁽¹⁾)。中山間地域のコミュニティーを支えるために、地域活性化の方策として様々な取り組みがなされている。

既往の研究として、亀山・柴田⁽²⁾によると、地域振興策を検討しているうえで地区内外の支援者を確認し、必要に応じて外部の人材を求めることが注目されている。徳野⁽³⁾、徳野・柏尾⁽⁴⁾、徳野⁽⁵⁾は、「T字型集落点検」

として、現在集落に居住している人だけでなく、他の地域に居住している他出子およびその世帯の人々のことも、将来のUターンやJターンの意識についてもかなり詳しく調べる。「近接別居」により地区外居住者からの支援に将来の集落の行き末を再考することを薦めている。渋谷⁽⁶⁾は、地域資源概念との比較に基づいて生活文化キャピタルを定義し、地域の豊かさの特徴に論究している。小田切・藤山ら⁽⁷⁾は、若手中堅の担い手が見当たらない場合などでも、必要に応じて外部の人材に頼ることで振興できるなど、地域資源をベースとする内発的な農村再生における人材支援の重要性を指摘している。

最近の新たな取り組みとして、廃校を活用して様々なイベントを比較的頻繁に開催して地域の交流拠点を維持する取り組みが、地域の振興策を模索するうえで注目されている。この動きは「持続可能な発展」、「共生」への取り組みとして位置づけることができる(農水省農村振興局⁽⁸⁾)。

*¹ 香川県農政水産部東讃農業改良普及センター

矢口⁽⁹⁾は「持続可能な発展」について「共生」の観点から地域振興策に新たなプラットフォームを提示した。「共生」の定義として、人と自然（資源）・社会（経済・風土）とのコミュニケーションを踏まえた合意を前提とした、ある一定の協創の「場・地域」において成り立つ協働のことであり、これに基礎をおく共生の生活・暮らしのこととしている。

本研究の対象である交流拠点におけるイベントは単発的な取り組み以上の、地域を超えたアソシエーション（自由な個人が自覚的に、能動的に結びついた集団、矢口⁽⁹⁾）間の協働として見直すことで、個人と地域におけるソーシャルキャピタルの形成、維持の過程を検討することができる。

従来、平坦部を主とする香川県において中山間地域への対策は、獣害対策の一貫として地域農産物の特産品による振興策が取り組まれてきた。亀山・柴田⁽²⁾では、さぬき市南川地区においては特産物は自然薯であり、(1)中山間地域の振興策（生活インフラと鳥獣害対策、特産品づくり）の現状と課題について聞き取り、(2)イベントの自然薯祭りへの来訪者に実施した意向調査結果を検討した。その結果、(2)については、①来訪回数によってアトラクションへの評価が異なること、②自然薯研究会が取り組みの出発点であり、このイベントの取り組みや地域振興への波及効果に限界があることが見られた。

本研究では、以上の地域活性化を促すために取り組まれている地域活動の経営研究の動向を踏まえて、これまで十分な計量的な分析がなされていない祭り、イベントの来訪者による評価のアンケートの設計に関して、短時間で、来訪者に負担感が少なく、イベントの雰囲気を損なわないアンケート様式の設計と分析方法の提示を課題とする。

分析手法

本研究では、香川県東かがわ市五名地区で毎年12月第1日曜日に開催される「五名ふるさとの家・いのしし祭り」の来訪者を対象として、2013年、2014年、2015年に、10:00~13:00頃までの時間帯でアンケート調査を実施した。

聞き取りの項目は、①全体評価、②在住地、③頻度、④目的、⑤アトラクションの評価、などである。

調査地域の概要として、本地区は、今なお隣近所で互いに助け合う気風が豊かである。少子・高齢化による人口減少についても住民間で危機感を共有している。そこで、活性化協議会を設立し、お盆や年末に里帰りした人

と地域の人とが交流を深める場を温め、地区内外との交流人口の拡大につながっている。伐採した木材の利用・販売や駆除した猪をジビエとして販売するなどにも取り組んできた。四国八十八ヶ所遍路ルート、同市の港部の志度と徳島県の吉野川に抜けるルートに沿っている。こうした立地の良さを生かし、香川県の市部のみならず徳島県側からのアクセスも多く、日曜祭日に合唱祭りや映画の鑑賞会などを行い、広範囲に来訪者を集め、交流拠点としての整備がなされてきた。持続可能な地域活動により共生するコミュニティの実現に向けて、地域住民の協同への合意形成と活動の実施に取り組んできている（五名活性化協議会⁽¹⁰⁾、東かがわ市ニューツーリズム協会⁽¹¹⁾、農林水産省⁽⁸⁾）。

分析結果

総合評価と聞き取り項目の関連性

来訪者の総合評価に対してどのような聞き取り項目が関連性が高いのか、Pearsonのカイ二乗検定を行う。総合評価は次の5段階で評価した。「非常に良い」=5、「良い」=4、「普通」=3、「悪い」=2、「非常に悪い」=1とした。

第1表 総合評価（5段階）と各項目との関連性に関する χ^2 検定

質問項目	PearsonのP値
複数回答	
アトラクション	0.912
織物体験コーナー	0.552
バザーコーナー	0.178
五名の人に会いに	0.396
五名が好き	0.027**
山里が好き	0.027**
いのしし料理を味わいに	0.039**
雰囲気味わいに	0.368
多肢選択	
どこから来たか	0.381
参加回数	0.041**
参加人数	0.536
滞在時間	0.030**
5段階評価	
五名のイメージ	0.000***
いのししメニューのイメージ	0.000***
個人属性	
性別（男=1）	0.101
年齢	0.370
開催年（2015年=1）	0.084*

資料：アンケート調査より作成。

注：有意水準は***:1%, **:5%, *:10%。

分析結果を総合評価と個別の質問との関連性を有意水準別にまとめる。「五名のイメージ」「いのししメニューのイメージ」とは1%の有意水準で、「参加回数」、「滞在時間」、アトラクションのなどについて、「五名が好き」、「山里が好き」、「いのしし料理を味わいに」は5%の水準で有意である。

次に、2015年と2014年の総合評価について、平均値の差の検定を行った。係数は負値で総合評価は前年の2014年の方が0.155だけ高くなっていた。しかし、等分散を前提としないWelchのt検定の結果、10%の有意水準でも帰無仮説（2014年と2015年とで総合評価が等しい）を棄却することができず、年による差はないことが示唆された。

順序ロジットモデル分析の結果

「いのしし祭りの総合評価（5段階評価）」を被説明変数とし、計測方法は順序ロジットモデルを採用した。

第2表によって順序ロジット分析の結果を有意水準別にみると、「五名のイメージ」、「いのししメニューのイメージ」は1%、「いのしし料理を味わいに」、「雰囲気味わいに」、「どこから来たか（所要時間）」、「参加回

数」、「参加人数」、「滞在時間」が5%で、そのほかの催し物は有意性が低い。

以上のことから、いのしし祭りの全体評価に良い評価をしているのは、五名のイメージが良いと考えている人、いのししメニューのイメージが良いと考えている人、雰囲気を味わうことを重視している人、参加人数が多い人、であった。

その一方で、「いのしし料理を味わいに」は有意であるが、係数の符号がマイナスであり、いのしし料理を食べることを重視している来場者からは良い評価を得られていない。いのしし料理を食べることを目的に来ている人は多いため、いのしし料理重視の来訪者から良い評価を得られるような工夫で改善できることが示唆される。

年の変数から前年が高くなっている。アトラクションの内容をみると、前年には子ども阿波人形浄瑠璃など特別な内容が上演され、また楽器演奏などもプロ級の方々を招いていた。交流の拠点として、雰囲気を重視しながらも上演演目の内容や演者を関係者以外からも招くことによってさらに総合的な評価が高まっていることが示唆された。

第2表 順序ロジットモデルによる推計結果

被説明変数：総合評価（5段階）	モデル1		モデル2	
	係数（標準誤差）	Z値	係数（標準誤差）	Z値
説明変数：				
① 複数 回数 答 該 当 に 1	アトラクション	-0.125 (0.970)	-0.13	
	織物体験コーナー	-1.323 (3.291)	-0.40	
	バザーコーナ	-1.380** (0.676)	-2.04	
	五名の人に会いに	0.771 (0.869)	0.89	
	五名が好き	-1.000 (0.819)	-1.23	
	山里が好き	-0.768 (0.840)	-0.91	
② 多 肢 選 択	いのしし料理を味わいに	-1.326** (0.672)	-1.97	-1.169* (0.615) -1.90
	雰囲気を味わいに	1.766** (0.738)	2.39	0.962** (0.595) 1.62
③ 5段階評価	どこから来たか	-0.653 (0.332)	-1.97	-0.765** (0.316) -2.42
	参加回数	-0.919 (0.575)	-1.60	-1.169** (0.547) -2.14
	参加人数	0.490** (0.236)	2.07	0.567 (0.227) 2.49
	滞在時間	0.232 (0.272)	0.85	0.391 (0.251) 1.55
④ 個人属性	五名のイメージ	1.560*** (0.443)	3.52	1.517 (0.413) 3.64
	いのししメニューのイメージ	1.398*** (0.432)	3.23	1.229*** (0.407) 3.02
⑤ 開催年度	性別（男=1）	0.844 (0.536)	0.92	1.339 (1.361) 0.98
	年齢	0.844 (0.536)	1.57	0.818 (0.485) 1.68
⑥ 交差項	年（2015年=1）	-0.155 (0.535)	-0.29	-0.202 (0.506) -0.40
	性別*年齢	-0.398 (0.308)	-1.29	-0.449 (0.280) -1.58
対数尤度	どこから来たか*回数	-0.345 (0.217)	1.59	0.430** (0.209) 2.06
			-67.614	-72.856

資料：アンケート調査より作成。

注：1) 観測値=112, (2015年 68, 2014年 54)

2) 有意水準は***:1%, **:5%, *:10%.

考 察

順序ロジット分析の結果は、係数の値だけで解釈するのは難しい。計測モデルの目的変数が確率そのものではなく、計測結果をもとに確率の変化を理解するために、改めて確率を計算しなくてはならず限界分析を行う（石黒^[12]）。

総合評価（5段階）は「悪い」の観測値が0で、第3表、第4表での予測値の分においても該当者がなしのため、予測値についても該当者がなく表示していない。

限界分析によると、(1) 男女別にイベント評価の予測値（第3表）をみると、男では高い（76%）、非常に高い（22%）が、女では高い（46%）、非常に高い（53%）である。男より女では概して高い評価である。同様に、(2) 年齢別（第4表）にみると、50歳代までが良いが（70%～80%）、60歳代では大変に良いが（60%～90%）と高齢になるにつれて評価が高くなっている。

結 言

五名のいのしし祭りについて、①アトラクションと②いのしし料理の観点からまとめる。

第1に、五名の地区における様々なイベントの中で、開催時期も年末で、同窓会、地域の人々と顔を合わせて無事確かめ合う、地域の一員としての自分を再確認する絶好の機会となっている。また、様々なアトラクションを新たに取り入れることは、他の地域からの来訪者を迎え、他の地域に出かけていくことで、地域外からの新しい来訪者を迎えるオープンな五名を形成するとともに、県内の他の地域とのイベントを通じて相互に行き来し、交流を重ねていくことに役立っている。それとともに、日頃、五名地区とかかわりを持っている人々の手作りのアトラクションも好評である。

このアトラクションによる総合評価が有意でなかった。隔年で地区外からアトラクションを招くことで、新たな来訪者を招き、新たなアソシエーションとの交流も生まれる。また、日頃から地区に関係する人との交流を深める場としての役割を果たしている。どちらがよいかということではなく、この両面がこの活動には欠かせないことが示唆された。

第2に、いのしし祭りはいのしし料理を目玉としており、これを目的に訪れる人は多い。例年、10時の開会前からしし鍋に長蛇の列で並んでいる。ししカレーなど、いのしし料理の種類を増やすなど工夫がされており、引き続き、これを重視する来訪者から良い評価を得られるように改善の余地がある。

第3に、交流拠点の運営には、イベントの成功以上に、イベントを作り上げるまでの準備や練習の段階に注目することが役立つ。地域振興策の実施にあたっては、徳野が提案する「近接別居」のような人材の見直しに加え、地域内外の交流が盛んになることで必要に応じた人の流出入を促進するスタイルを確立することが有効である。

本研究では、これらのイベントの開催にあたってどのような準備や練習がなされ、どのような交流が日常的になされているのか。地域振興策とどのように関わっているのか。この点については、今後の課題としたい。

謝 辞

本研究は、香川県東かがわ市五名の活性化協議会木村京子氏のお世話でいのしし祭りにおいて3年間にわたりアンケート調査を行った。関係機関（香川県農政水産部農業経営課、東讃農業改良普及センター）のご協力に記して感謝の意を表す。

摘 要

中山間地域における地域振興のあり方についてひとつのあり方を実践している五名の活性化協議会によるイベントを取り上げる。イベントの開催に係わる活動の基本コンセプトは、1来訪者にふるさとを感じてもらえる、1得意なことを披露してもらい出番をつくる、である。研究の課題として、来訪者によるイベントについての評価様式である。3年間にわたり調査員との交流などで会場での雰囲気盛り上げるような調査スタイル、調査票のデザインの改良を行なった。その結果を用いて順序ロジットモデルを推計後、限界効果により年齢別イベントの総合評価の予測値を示した。

第3表 イベント評価の男女別の予測値の分布

5段階評価		男	女
非常に悪い	%	0.14	0.04
	標準誤差	0.0020	0.0005
普通	%	2.13	0.55
	標準誤差	0.0194	0.0057
良い	%	75.62***	46.51**
	標準誤差	0.1230	0.1985
非常に良い	%	22.09	52.89***
	標準誤差	0.1353	0.2028

注：1) 推計結果を用いた予測値

2) 有意水準は***:1%, **:5%, *:10%.

第4表 年齢別のイベント評価の予測値の分布

		20才未満	20才代	30才代	40才代	50才代	60才代	70才代	80才代
非常に悪い	%	1.50	0.61	0.26	0.11	0.05	0.02	0.01	0.04
	SE	0.03	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	P値	0.63	0.55	0.46	0.40	0.42	0.51	0.60	0.67
普通	%	17.23	8.35	3.79	1.67	0.73	0.31	0.14	0.06
	SE	0.26	0.10	0.03	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00
	P値	0.50	0.42	0.26	0.12	0.18	0.38	0.53	0.64
良い	%	78.53***	84.72***	82.40***	71.50***	53.34***	33.29*	17.73	8.49
	SE	0.24	0.06	0.08	0.08	0.10	0.19	0.20	0.15
	P値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08	0.37	0.56
非常に良い	%	2.81	6.30	13.54	26.70***	45.90***	66.37***	82.12***	91.44***
	SE	0.05	0.08	0.10	0.08	0.10	0.19	0.20	0.15
	P値	0.59	0.44	0.18	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
観測値		5	13	19	20	17	29	18	1

注：1) SEは標準誤差

2) 有意水準は*** :1%, ** :5%, * :10%

引用文献

- (1) 小田切徳美編著：『農山村再生に挑む』，岩波書店（2013）。
- (2) 亀山宏・柴田裕子：中山間地域振興における地域特産物づくりとイベントの活用，農林業問題研究，51（2），134-139（2015）。
- (3) 徳野貞雄：『農村の幸せ，都会の幸せ』，日本放送出版会（2007）。
- (4) 徳野貞雄・柏尾珠紀：『T型集落点検とライフヒストリーでみえる家族・集落・女性の底力 一限界集落論を超えて一』，シリーズ地域の再生11，農山漁村文化協会（2014）。
- (5) 徳野貞雄：「人口減少時代の地域社会モデルの構築を目指して～「地方創生」への疑念～」，徳野貞雄（監修）・牧野厚史・松本貴文（編集）『暮らしの視点からの地方再生一地域と生活の社会学』，九州大学出版会（2015）。
- (6) 渋谷美紀：生活文化キャピタルの再構築にみる豊かさの諸相，農林業問題研究，44（4），20-31（2009）。
- (7) 小田切徳美・藤山浩ほか：『地域再生のフロンティア～中国山地から始まるこの国の新しいかたち～』，シリーズ地域の再生 15，農山漁村文化協会（2013）。
- (8) 農林水産省農村振興局中山間地域振興課：中山間地の活性化のための空き家・廃校等を活用した農山漁村集落拠点づくり，パンフレット，農水省，1-12（2013）。
- (9) 矢口芳生：『今なぜ「持続可能な社会」なのか，一未来社会への方法と課題一』，農林統計出版（2013）。
- (10) 五名活性化協議会：五名に根差した五名～愛に満ちた五名活性化～，全国過疎地域自立促進連盟会長賞受賞資料（2016）。
- (11) 東かがわ市ニューツーリズム協会：五名ふるさとの家記念イベント&いのしし祭り，東かがわ市観光ガイド（2016）。
- (12) 石黒格：『Stataによる社会調査データの分析』，北大路書房（2008）。

